

分割される地区の 出場校・傾向と対策



今年の夏は、長い冬を越えた「〇年ぶり出場」が見られるか？

今年は6地区が分割される

記念大会である今夏は、第80回第90回同様、参加校の多い一部都道府県では甲子園出場校が増枠される。増枠地区は前回に続き埼玉

千葉、神奈川、愛知、兵庫。そこに今大会から福岡が加わる。

過去、この増枠で優勝戦線に影響を与えてきたのが地区割りだ。地区によっては甲子園常連校、強豪校が一方の地区に偏り、結果的にフレッシュな高校が甲子園にやってくることもあった。第80回の滑川（西埼玉／現滑川総合）はその好例。捕手からリリーフでマウンドに立った久保田智之（元阪神）の活躍など、甲子園に旋風を巻き起こした。その後は出場校数や戦力バランスを細かく加味した地区割りの調整、変更が行われるようになった地区もあり、当初ほど意外な顔ぶれが生まれにくくなった

印象ではある。それでもチャンスが増えることに違いはない。そこでここでは今夏の増枠地区の出場校展望をしてみた。

「新顔」よりも「復活」期待？

まずフレッシュな出場校の期待大きいのは愛知だ。地区割りは尾張エリアの西愛知と三河エリアの東愛知に分かれる形だが、中京大、中京、東邦、愛工大名電、享栄の「私学4強」に、春を制した誉や至学館、栄徳などの新興私学は西愛知。対して今年の東愛知は圧倒的な力を持つ優勝候補は見当たらず混戦模様。特に、3年前のセンバツに21世紀枠で出場した豊橋工もそうだったが、実力派の公立校が目立つのが特徴で、10年前の第90回も公立の大阪が大会を制している。豊橋工、大阪のほかにも好投手育成に定評がある豊田工、本気で甲子園を狙う西尾東、上位進

出実績豊富な進学校の刈谷と多土。久々に夏の愛知から公立校出場が見られるかもしれない。もちろん初出場を狙う桜丘に進境著しい豊橋中央、実績のある豊川、愛産大三河など私学勢も虎視眈々。予想できない戦いが繰り広げられそう。

また、大阪も近年の2強、大阪桐蔭と履正社が北大阪に入ったことで南大阪が面白くなりそう。ただ、こちらのキーワードは「復活」。学校が本気で再び力を入れ始めた古豪の興國に阪南大、高上宮、上宮太子、夏は40年近く甲子園から遠ざかる大体大浪商などの復活出場があり得るかも？

「復活」以外ならば全国屈指の悲願校・大商大堺も大チャンスだ。その他の地区は有力校が上手くバラけた印象。それだけにこれらの地区も「復活」という視点で面白いかもしれない。たとえば北埼玉の上尾。花咲徳栄という高い壁があるが、浦和学院がないのは大きいはず。

福岡では春の県大会で4強を夏の北福岡勢が独占。混戦になりそうな南福岡で久留米商、福岡第一の復活チャンスが見込まれる。

過去も北神奈川の慶應義塾、南大阪の近大付、西兵庫の東洋大姫路などが夏の甲子園長期プランクで果たした。今夏も劇的な復活があるかに注目したい。

過去の分割された地区の出場校

第80回大会

東埼玉：埼玉栄
西埼玉：滑川

東千葉：八千代松陰
西千葉：市船橋

東神奈川：横浜
西神奈川：平塚学園

東愛知：豊田大谷
西愛知：愛工大名電

北大阪：関大一
南大阪：PL学園

東兵庫：報徳学園
西兵庫：東洋大姫路

第90回大会

北埼玉：本庄第一
南埼玉：浦和学院

東千葉：木更津総合
西千葉：千葉経大付

北神奈川：慶應義塾
南神奈川：横浜

東愛知：大府
西愛知：東邦

北大阪：大阪桐蔭
南大阪：近大付

東兵庫：報徳学園
西兵庫：加古川北

※ 福岡は過去の大会では分割されていないので未掲載

※ 埼玉、神奈川は第80回と第90回で名称を含め、大きく地区割りを変更している